

3
成分

バエ
3葉期まで

田植
同時

※1キロ粒剤・フロアブルのみ

移植
直後

直播

水稲用 初・中期一発処理除草剤

新発売

エンペラー®

1キロ粒剤 豆つぶ[®]250 ジャンボ フロアブル



ノビエ



ホタルイ



オモダカ

皇帝の品格

- 新規成分エフィーダ[®]（一般名フェンキノトリオン）を配合
- 3成分で問題雑草をワイドに除草
- スピーディーな除草効果
- 水稲に高い安全性



※商品画像はイメージです。®はクミアイ化学工業(株)の登録商標



エフィーダ[®]配合
問題雑草に広く効く!!

自然に学び自然を守る





特 長

- 新規有効成分“エフィーダ®（一般名：フェンキノトリオン）”を配合した3成分の混合剤です。
- エフィーダ®によりコナギやミズアオイなどの広葉雑草、ホタルイやコウキヤガラなどのカヤツリグサ科雑草が白化し、高い効果を示します。また、SU剤抵抗性雑草にも効果を発揮します。
- ノビエ3葉期まで使用することができ、また、ピラクロニル配合により速効的に褐変・枯れ症状がみられます。
- 高い水稲安全性を示し、移植水稲では移植時から使用することができます。また、飼料稲栽培時にも使用することが可能です*。

*既存の4-HPDD阻害剤に感受性が高いとされる、やまだわら、とよめき、タカナリ、モモロマン、ミズホチカラ、ノバタキ、おどろきもち、ふくおこし、えみだわら、もみゆたかに対し、エフィーダは高い安全性を示すことを確認しています。WCSについては別途、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルを確認の上、ご使用願います。

●豆つぶ250とジャンボは10アール当たり250gと軽量で、優れた拡散性を発揮します。

適用雑草及び使用方法

2020年11月11日現在の登録内容

※各有効成分を含む農薬の総使用回数：ピラクロニル2回以内、ビリミナックメチル2回以内、フェンキノトリオン2回以内

1キロ粒剤（農林水産省登録 第24063号）

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時 移植直後～ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで	1kg	1回※	田植同時散布機で施用 湛水散布
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ	稲出芽前期～ ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで			

豆つぶ250（農林水産省登録 第24073号）

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで	250g	1回※	湛水散布、湛水周縁散布、 水口施用又は無人航空機 による散布
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽前期～ ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで			湛水散布又は無人航空機 による散布

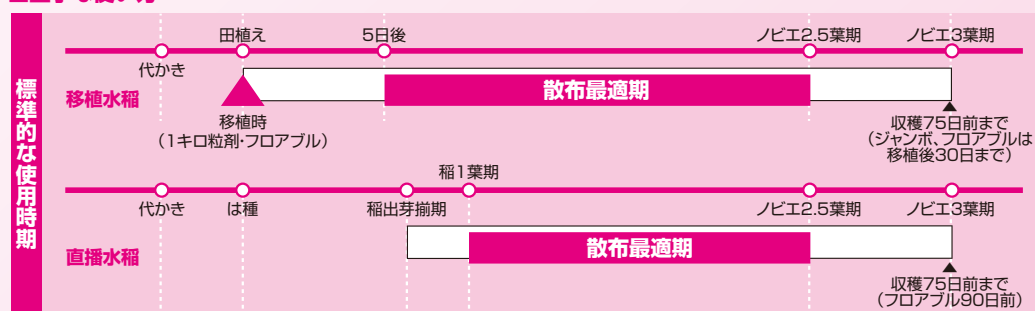
ジャンボ（農林水産省登録 第24074号）

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	小包装 （バック） 10個 （250g）	1回※	水田に小包装（バック） のまま投げ入れる。
直播水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲出芽前期～ ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで			

フロアブル（農林水産省登録 第24154号）

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ コウキヤガラ、エノノサヤヌカサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時 移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	500ml	1回※	田植同時散布機で施用 原液湛水散布 または水口施用
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲出芽前期～ ノビエ3葉期 但し、収穫90日前まで			原液湛水散布

上手な使い方



■使用上の注意

【共通】

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布してください。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ（豆つぶ250・ジャンボ）は発生期間が長く、遅い発生のものでは十分な効果を示さないため、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。

【1キロ粒剤】

- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、クログワイは発生前、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生盛期までが本剤の散布適期です。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。

【1キロ粒剤・フロアブル】

- 直播水稲に使用する場合は、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、稲の出芽が揃わない場合は、稲の不完全葉期以降に散布してください。

【フロアブル】

- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ヘラオモダカ、エノノサヤヌカサは2葉期まで、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期です。
- 原液湛水散布の場合は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま水田全面にゆきわたるように散布してください。散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 水口施用の場合は、入水時に水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させてください。処理後田面水が通常の湛水状態（水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。

- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。

【豆つぶ250】

- 湛水散布または湛水周縁散布に当たっては、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態（水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布または水口施用を避け、本田内水田全面に散布してください。
- 水口に対して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用を避けてください。
- 本剤は吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早めに使用してください。
- 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
 - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離れて圃場内に散布してください。

【豆つぶ250・ジャンボ】

- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期です。
- 直播水稲に使用する場合は、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、稲の出芽揃期以降に散布してください。
- 【ジャンボ】
- 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めてください。
- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 本剤は小包装（バック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- 藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な葉害や効果不足を生じるおそれがあるので使用は避けてください。
- バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破損することがないように注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2020年11月11日現在の知見に基づき作成しています。 1915(20-11)